



Chocolat 通信

2014年 9月号

合唱曲「風のうた」特集

K'mio talks

『風のうた』に寄せて

今回のこの曲に関しては実を言うと、私は知りませんでした。佐藤さんのお薦めの曲で、私も今回初めて知った訳です。現在は90歳になられる大中恩先生と、二年程前に一緒に仕事をした時の曲の印象は、「優しい」というものでした。そしてこの「風のうた」とは正直全く違う印象です。この「風のうた」は先生が47歳の時の作品。ですので曲からその若いエネルギーが溢れているように感じます。「島よ」は前の年1970年の作品。やはり猛々しい印象があります。そしてスタートした調性と終わる時の調性が違う、というのは作曲の世界では一種のタブーなのですが、四曲全てがそうなっています。恐らく発表時は一種の批判にさらされた事でしょう。しかし、そのタブーをおかしてまでもそうしたのは、常に曲の中に「風」が吹いているからでしょう。刻一刻と自然は、そして人間は変化して行く。それを表現するための手法ではないか、と私は思います。「風」が「風邪」にならない様に気をつけながら、「風」を感じながら演奏しましょう。

(Noboru Kamio)

佐々木 団長の 断腸の思い

「風のうた」

「風のうた」のテーマは言うまでもなく「風」ですね。過去にショコラで多く取り上げた曲のテーマは日本の自然、花鳥風月を表しています。そのテーマは「水」「四季」「ふるさと」「土」「川」「花」といったものでした。「風のうた」作詞者の中村千栄子さんは「風」を中心に置きながら春夏秋冬のそれぞれに相応しい地を選び心象風景を見事に表現しています。その素晴らしい詩に季節毎の異なった風が心の中を吹き抜ける曲を大中恩さんが作り出しています。「風」と「土」を組み合わせた「風土」という言葉は元来は季節の循環に対応する土地の生命力を意味し、やがて場所ごとに異なる地域差を意味するようになりました。「風」は季節と土地の組み合わせで様々な相を見せてくれます。風まかせに歌わずに、この曲の詩の風景と御自身の心象風景を重ね合わせて歌えば、素晴らしい「風」が吹いてくれることでしょう。

(佐々木 晋)

「風のうた」のこと

佐藤 信正

最初にこの曲を聴いたのは、入社式でした。会社の合唱団が、新入社員歓迎のために前年の合唱コンクールで歌ったという「冬の風」を披露してくれました。その日のレポートに感激したと書いたら、翌日「スカウト」され合唱経験もないのに否応なく入団させられた因縁の曲です。1ヶ月後の演奏会に、口パクでいいから出るようにという「業務命令」に従いステージにのりました。「風のうた」全曲と南安雄作曲「日曜日」という組曲（この「日曜日」という曲、蓬萊泰三作詞で交通事故加害者側の子供の悲痛な心情を描いた大変な名曲だと思います）を歌いました。全く不本意なデビューでありました。

従って「風のうた」については、私はどんな感じの曲かは解っていますが、譜読み等は大部分の皆さんと同じで初見に近いものです。結構難しいという声もあるようですが、どの部分を取っても親しみやすい旋律とハーモニーで書かれているので、慣れてしまえば歌い易いのではないかと推薦者として一応の弁明をさせていただきます。また、神尾先生が最初の練習時、楽譜の後ろの注記をみてこの曲の出版社での印刷は久しぶりのようだと言っておられました。確かに最近あまり演奏されないようですし、あらためて聞き直してみると「いかにもつき過ぎ」と感じられる点もあるのですが、それにも増して「気持ちよく感情移入できて、気持ちよくハモれる」素敵な曲だと思いますので、頑張ってレパートリーにしましょう。

パトリ真語

TENOR 佐々木 晋

次の演奏会に向けてスタートした段階ですが、申し訳ないことにテノールの出席率が悪く御迷惑をおかけしております。今回は混声4部の中でテノールの位置づけについて書いてみたいと思います。パートの難易度が難しい順はアルト>テナー>バス>ソプラノと言われることが多いそうです。実際にはどのパートも技術は必要ですし難易度は大差無いと思われまます。それでもテノールは内声で音を取りにくかったり音域が広い、特に高音はAまで要求されることがありテノールらしく高音域を出す技術はそう簡単なものではありません。一般的に混声合唱団ではテノールが不足していることはよく聞くところです。ということでテノールに対しては暖かく広い目で見て頂きたいと思います。

SOPRANO 阿部 紀世

今とても興奮しています。ソプラノの皆さんしっかり音取りしておられました。時間のかけ方は各々違いますが練習会場に向かう心構えが違ってきました。先生の新たなご指導が始まり新しい人には戸惑いもあるでしょう。

個々に音取りをして練習時には声を出してみても出来ない箇所をチェックしてみましょう。音の下がり易い人、ちなみに私はカンニング・ブレスが上手く出来ません。先生の言われる事・歌い方をよくきいてうたっていきましょう。必ずや良い結果に繋がると思います。

ALTO 金成 素子

月に一度の田辺先生のVTは個人レッスンもあり、とても勉強になりますね。何より自分の発声の癖を知ることができます。ハーモニーは音を正確に取ることだけでは生まれません。発声を正しく行い他の人と声を揃えることではじめてきれいな響きになります。発声練習で自分の声の調子を確認して、「今日の練習では～に気をつけよう。」と自分なりにポイントを考えながら練習に取り組むと充実感もあり、効果も上がるのではないかと思います。

「風のうた」は、一つ一つの曲にそれぞれ違った風情があり、歌っていて楽しいですね。アルトの声の響きがこの曲ではどう表現できるのか、考えながら歌っていきましょう。

BASS 古川 智久

「風のうた」は、春夏秋冬の4曲ですが、1つ1つの曲の中にもいろいろな曲調のフレーズがあるので、それ以上の曲数を歌っているような気持ちになる曲集です。それぞれの場面転換のときにしっかり準備をして歌いださないと、かえってバタバタした感じに聞こえてしまうと思うので、音取りと同時に曲ごとの構成も頭に入れておくようにすると、より歌いやすく、表現しやすくなるのではないのでしょうか。

瀬戸内、赤倉、奈良、越後、全部の実物を見たことがある人もいるかもしれませんが(?) 曲の世界に入り込むことができれば、見たことがなくても音楽が連れて行ってくれると思います。



「黄色いセキレイ」
「キセキレイ」という名前です。水辺で見られます。



「オニヤンマ」
大きくて、速く飛ぶので、虫取り少年の憧れでした。

☆通信担当より☆

今回のショコラ通信は、6月から練習を続けてきた合唱曲「風のうた」特集にしました。佐藤さんのお薦めの曲ということで、佐藤さんからも原稿をいただきました。「風のうた」についての理解を深め、より深く表現できるようにがんばりましょう！

また、次号あたりから「わたしの旅」というテーマで皆さんに原稿を依頼します。修学旅行や合宿の思い出、旅で出会った素敵な出来事、また、いつかは行ってみたい旅のことなど、旅にまつわることなら何でもOKです。気軽に書いていただくと担当としても嬉しいです。よろしくお願ひしますね。